



# 蝦夷風俗彙纂 = Ezo fūzoku isan. [Series 2, vol. 3] 1882

[s.l.]: [s.n.], 1882

<https://digital.library.wisc.edu/>

<http://rightsstatements.org/vocab/NoC-US/1.0/>

The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

蝦車風俗彙纂後編

三

CHESTER S. CHARD



蝦夷風俗彙纂後編卷三目次

○交易

蝦夷交易の事

交易ふ偽品を製するの事

交易蝦夷食物を争ふ事

御救交易の事

煎海鼠交易の事

鮭交易の事

擇捉人交易の事

夷地ふ銭通用建白の事

交易品直段の事

蝦夷勘定の事

山丹人交易品取扱の事

オロツコ人交易の事

介抱を交易といふ事

産物の事

蝦夷風俗彙纂後編卷三

其言語少。日本語

す交易事理。土人亦貿る交易の體也。然も少く  
地主畜生。牛馬。穀物。魚類。酒肉。煙草。瓦器。財  
物。等の交易耳。餘り甚多。其衣。其食。其住。其行  
事。爲一。○蝦夷交易の事。則。其。事。致。外。如。參。繩。の。事。類。大  
蝦夷諸島。金銀錢。比通用なし。土人と土人との交易も。  
太刀及び小道具。矢筒の類を以て交易なきあり。是等  
を彼地の寶物とする事より。山奥より大切に秘藏する  
事なり。土人と松前人との交易も。日本產物。比米。糲。酒  
木綿。古着。衣類。又古器。財。刃物。類など。蝦夷產物の魚

油干魚類と交易せるなり。日本人と違ひ金銀錢の通用なけりバ。豪富なるもなし。皆其日ぐらしよして。穀物積貯るよりなし。又年貢租稅なけれバ。稼ぎふ出精まる事もれし。遊び戯きて日々を暮すなり。名利名聞残離れて見せバ。安樂なる境界なり。蝦夷草紙

毎歳一度日本人。米酒衣服煙管煙袋。或漆髹の碗碟。及銀鉛の小環耳飾となきも比。亦斧小刀等及其他のもの比を齎し往きて。野作<sup>エガ</sup>の魚類鯨油肉獸皮鳥翼等の類と交易す。野作人亦頗る交易の道よも敏し。然もビも更よ邪曲比姦を用ふる事なし。其言語少しく日本語

を交へ用ふといへす。

按此るより東北の地。此夷俗を混説せ

北極出地四十六度の地。則唐太の南岸。シテコシ邊より  
住む土人甚ざ鉄を貴ぶ。鳥獸或獸皮を齎し来て。鉄と  
交易せん事を乞ひたり。野作雜記譯說

宗谷此交易物の内より錦を衣服より仕立たるをジット  
クヒイヒ。卷物なるをキンランといふ。青玉此大ひね  
るもれ有。五色此小玉也る皆練玉なり。あれを虫の巣  
といふ。中よも青きいたる。是哉唐太鳴よう。蝦夷人  
ども持渡れり。唐太此白主といふ處。海上十三里ぞ

のアといふ。タライカ鳴より北方ふたりて。山丹滿  
州といふ處なり。あれを則北高麗なりと。松前のも此  
いひけり。タライカより幼稚北モのを。山丹滿州の  
兩國へ渡し置きて。言語を習せ。これをして交易此  
通詞となせ。おとなりと云。北海隨筆

蝦夷人山丹人曰。唐太地より山丹地ふたりて。山丹地よ  
う滿州ギチふたり。イチヨボットを經てヌンクタイ  
一出。ギリウラを過てボチヨふたり。蝦夷人山丹人每  
歳ギチふあひて。滿州と交易をなす。時々ヌンクタイ  
ボチヨふ至るもの有ヒ。

守重按する。スンクタイも即寧古塔。ギリウも。  
即吉林烏喇ボチヨモ即船廠なり。韃國漂流記ふ云。  
松前西在突荷村。孫太郎安次郎重兵衛。寛政七年六  
月韃地へ漂着。九年二月唐土より長崎へ歸國。その  
口供ふ云。初六月。西地奥尻嶋へゆき。昆布をとらん  
とて。乗出せし小舟漂流し。六七日海上ふ漂ひ。漸く  
よ山を見出して乗付し。舟を岩ふ當りて破船。初  
て海濱ふ上陸。の海濱せ事。此度護送の唐人ふ  
問ふ。韃吉林の内。伊皮韃の地みて。乍浦迄せ送狀ふ  
載たる由云。の唐人への尋。長崎役所ふて。護送

の唐人へ問しなり。韃靼は國を越前より乾の方よ  
當るべし。邊要分界圖考抄

唐太は夷人。山丹のキチホ至り。滿州人と交易をなす。  
近來を交易場へ出るものあり。山丹夷人相對の交  
易ふして。今年貸し附。來年取立る也。往年も唐太は  
夷人。債負は爲す。山丹ふ掠めらば。滿州の地へ連連往  
きて。奴婢ヒナキとの少くらば。其中シイヌンシウハ  
アマンシウふ移され。土着せるものあり。内地宗谷夷  
人。カリヤシシも。二十年前より既ふ山丹ふ往て。滿州  
の人となり。今猶唐太と往來す。西部オイチシカよう。

前路。オチシ邊迄。山丹ふ擄掠せらき。其地人戸乏きよ  
至る所多し。故ふ唐太奥地も。いりとあく。山丹風俗よ  
化ゆるなり。邊要分界圖考  
唐太嶋北夷も。我白主よ來て諸物を交易し。又山丹夷  
オロツコ。スメレンクル北夷と交易して。其生産をな  
まことなれば。是嶋夷北専務となすとあるあう。其交  
易するところの物。我渡しとこゆの物也。獸皮米酒木  
綿煙草斧針鍋の類を以て歩きバ。島夷も山丹よ持  
来る所北錦玉煙管其他鷺羽。及び獸皮を以て製し。繩  
よりへ用るトナリと云ふ。類を交易し。又府よ來

て傭作し業となすものあり。

唐太嶋の夷山丹夷と交易するふと。終歳なきところ  
なり。山丹夷来る時も。先海濱より假屋を造り居となし。  
其假屋より至り相親みて交易すること甚し。是山丹夷  
諸物を交易するのみふらば。又其物を貸すも所迷  
バ、なり。夷等の事なれば。後日其價を責らるゝふとも  
慮らず。妄より諸物を借す。終より其債をつくせふと能  
むべ。山丹夷歸去れ時より當ては。よく妄語を以て夷  
等を責めふと多し。故より相共より其事を論じて。相撲擊  
止むよ至ること少ぬらば。然れども又いつとなく

相和して。舊比如く物を貸して歸り去るといふ。奥地  
オロツコスメレンクル也類來て交易するも。又大抵  
如此し。北蝦夷圖說

○交易より偽品を製造する事

唯交易より熟せし夷より。或そ姦詐の者ありて。熊膽、猛  
胸臍の偽品を製造ひといふ。蓋し痴直比間より、う  
て孝子あり。義夫あり。才智聰敏の者あり。苟能撫育を  
厚くし。教化を遍くせば。良善の國よ變改づし。然れど  
亦從來鳴主の制度。日本人と蝦夷との別ちを嚴よし  
て。たして日本の風習より移らざらしむるを善ヒセリ。

唯松前箱館江差め三面も。諸國の民雜居し。各國の商  
船輻湊して。姦且淫なりと云。蝦夷舊聞

東遊記附録ふ。海驢をアシカといふ。此地にてモトハ  
といふ。夥しく何り。蝦夷人絞て油をとる。贋熊膽も此  
物也。膽なり。目利のモロ浅欺く事何り。又モセナリヒ  
志れども。出來宜けキバ求置て。又異人を欺くモビテ  
ウ。皮を細くたちて細引ヒ替リモ用ひ賣買モナリ。至  
てはよきものなりと云。千島志料

○交易蝦夷食物を争ふ事

蝦夷地へ交易モ渡海モる船也。二百石積位より五百

石積位までなり。交易せ荷積船。彼地より着岸止<sup>シ</sup>。夷人ら大勢乗て、食物を尋ね。我先もとあらそひてつうみ食ふ。こきと制してとじむる時也。交易をもせざる事故よ。かねて其心得して行事ありとぞ。或曰。前年渡海せ船人。智計をめぐらして、煎飴を多く貯へて持行しよ。例比如く夷人ども船よりこみ。件のためを見つけて。あれハいのあるものよやと。互にさすやきしが。一人其飴を指みて少し味ひてあゝ詫むるよ。甘美なれば喜びて、皆々打寄<sup>シ</sup>。指をさし入達<sup>ナ</sup>。嘗居たりしが。次第よ大勢打かざなうて。群がり喰らひしよ。

よう。心せうれらをとて、摑みくらひしが。後ふそ夷人  
との髪ふのめ流走つきて。口をあひらく事を得ぬ。  
兩手も鳥もちをつけたる如くふなうて。俄よおどろ  
き騒ぎ。手戻合せてモビ言せし故ふ。通詞をして常々  
比狼藉の事といひさとしなれば。誤モ入てモビせし  
うば。船方どもやうて湯をまかして。髪と手を洗ひあ  
とさしむる。其後そだへてかゝる狼藉比ふるまひ  
をば。ねき坐といへり。北海隨筆

## 入る大○御救交易の事

交易となはる。夷ども會所へ來まとて。たとつば煎海鼠

百を出してアフラシヤケと望めバ。清酒三盃是をつ  
のぞし。但一盃といふを二合五夕入椀にてそゝる事  
なり。タンバコとのぞめバ。煙草一把より煎海鼠を百五  
十なり。煙草一把をタンバコシネムイといふなり。ま  
上煎海鼠百出しや。力ニと望めば。耳環一把遣きてな  
ビ。夫々ふ交易致し遣き事みて。米をアマヽといひ。濁  
醪をシラクユルシヤケと云。飯をシユケアマヽと云。  
紺木綿をセンカキ。白木綿をシタヒセンカキヒ云。海  
鼠引かねをウタヤカニ。鰆差をサハサキと云。小刀  
北少し大なる。魚比腸をとる庖丁の事みて。是をイビ

リケともいふ。皮針を子ルエケム。小針をアネケム。耳  
環をヤハカニヒ云。鴨々をカモハヒ云也。曲物みて  
黒く又赤く塗。夷用み仕入れし器みて。出羽坂田みて  
作る。是ニニアチシとも云。細羽繩をアハナハとモツ  
シとも云。一俵をシネダハラ。一樽をシネシントコ。一  
把をシネムイと云。椀又一盃但し二合五夕入を。シネ  
イタギといふ。あらまし此趣みて。宗谷交易定直段。左  
の如し。

米一俵付但八升入

鮓六束鮓二十を一連十連を一束と云

煎海鼠五百

鮭五束

鮭二十本を  
束と云

鱈十五本

上同

干鱈六束

上同

鮭アダツ

上同

鱈アダツ

上同

數子三樽二斗

上同

白子

上同

椎茸六百

水豹皮三枚

ト、皮一枚

反アツシ三枚

手幅付アツシ一枚

アブスケ六枚

葭簾の事なり

キ十三枚

夷の苦の事なり

右の外よ

魚油二斗入一樽

代米八升入三俵

熊膽一つ

十德一つ

十德中品一つ

十德上品一つ

段切五尺二付

鷺糞尾一把

鷺薄冰一把

鷺真羽一把

唐太煙管

代十四俵より二十俵  
代魚油三樽より見合

代魚油三樽半より五六樽

代魚油八樽迄

代魚油二樽

代魚油一樽より一樽半

代魚油二樽より四樽

代魚油五樽より十樽

代酒五六盃より小樽一つ

右者油にて交易直段記述といへども油の代又米又

て渡す。前ふ云ごとく油一樽も。八升入米三俵の割合  
なり

米一俵八升價交易の品左の如し

酒小樽四升入  
一つ

濁酒二つ

醪四升入  
一つ

煙草三把

田代出及庖  
丁の事一枚

間剪六枚

夷椀六つ

煙管三本

糰七升入一俵

鴨々大小一組

耳環六提

火打六枚

右の外ふ

酒桶大一ツ

油二升入三樽當ア

酒桶小一ツ

油二樽

古手一枚

油三樽より四樽迄外八升入五六俵より十俵迄

皮縫針

烟草一把小付十二本當ア

小針

烟草一把小付二十四本

木綿糸

煙草一把小付二十四線

木綿一反

八升入米三俵當ア

白木綿一反交晏の品主

八升入米二俵半

鑷一挺

八升入米二俵

行器大小

八升入米二三俵より五六俵

三十海鼠引の孫一掛 煙草一把

右の振合にて生こし宛の交易も。それくよ交易いさし遣いなり。諸方より海鼠引夷宗谷へ集またる節ハ。會所一三十人五十人。一所ふ詰うけ。段々云込て海鼠引漁事と引當ふ。飯糧又も米粬酒煙草海鼠引道具等入用の品。其外前々ふ書記したる品ビを借受る事よて。餘う大勢みて混雜する時そシマコライヒと呼ハり外へ追出し。次第ふ貸遣すことなり。宗谷場所御救交易會所取扱の事故。最初下役的井要助今井元庵長川仲右衛門通詞兼村上長三郎。其外番人等を多うり

し云々夷諺俗話

交品會○煎海鼠交易の事  
海鼠引漁も。海鼠引綱を夷船よりのせ海上へ乘出し。之  
にて見立置たる海鼠の有所にて。このらみをおろし。  
繩は先より木札いりうと附れき。是を最初の處へ卸し。  
凡百間許より船を披き行て綱をたがし。綱より付たる  
繩はもしを船艤艤へ結ひつけ。夫より碇の繩を手よ  
て操る。最初は所へくりよせて。綱を船の中へ引揚る  
なり。海上風なく浪静みて漁は多き時を。一網より百二  
三十も引揚るなり。終日引て一人より能き漁艤節也。

二千ほども取事有。其日曳たる水海鼠を  
水海鼠といふ。いまざいとよせば、引上げたる  
儘なる海鼠をいふなり。

船よりみたるまゝよて、運上屋敷。其濱邊へ漕くる。  
の時會所より改めよ出。海鼠數をかぞへさむるよー  
よ又五つ宛みて

シネノフ。ナツトワニツ  
ナリツ フレツフミツ イネツフ四ツ

アシキ 五ツ  
ナリツ イワン六ツ  
ナリツ アルワンセツ  
ナリツ ツベニハツ

シネバシ九ツ  
ナリツ トヲナリツ  
ナリツ

如此唱ふるなり。夷言みて十もワンべなれども、日本

語たほえたるやトヨとよぶなり。算ふる事をヒシケ  
ヒ云。右のごとく五つ宛十算へたる時。改ふ出たるも  
の手帳より海鼠引夷比名前を記し。其上へ十ヒよみた  
る時。正ヒ字ヒ一畫を記しかぞふるよもさうりて一  
畫づ。是哉りく。一畫を五十なり。正ヒ字一字出て二  
百五十なり。二字みて五百となる。段々かぞへ。最早殘  
り五十もねしと見つむるときハ。此度も一よみよニ  
つ宛。シネツフトツフヒ順よかぞへ。算仕廻て。たヒヘ  
バ五百三十五句達バ。アシキ子ツフイカシマワニヘ  
エカルワノホツイカシマツシネワノホツ。かくいふ

ね。是が五百三十五といふことぢね。五百三十五  
也。日本言九つなり。蝦夷言よてを三十一なり。迂遠な  
る云かたあり。右比引高を銘々日々手帳よ附置事か  
う。是を煎海鼠よして請取時也。夫亦てよ抜荷等言ひ  
まじき爲。水海鼠みて數を改め置事なり。右その日比  
引高も應じ。五百以上引上たる夷へも濁酒一杯づ。  
千以上引たる夷へも二盃づ。右比高引たる夷比腕  
よ。矢立比筆よて書記し遣せば。夷會所へ行て腕をま  
く見せる故。夫を證據よ右のふごうさけを廢美よ  
呑むる事ねり。是を此度存付勵みせ爲よ。如此せしな

モ。扱夷ども改を受たる水海鼠を。我家々へ持行。まゝ  
モ濱邊よてモ。直モ大鍋ヨ湯を湧し。引揚たるまゝヨ  
テ鍋ついき暫く煎る。煎ゆ、のりて是を引揚げ。長さ一  
尺。むらりの串をこしらへ。夫へ十充串柿のごとくヨ  
通し。十本を一連として。圍爐裡の上へ釣し。四五日も  
乾上げ又モ日當よても干なり。十連よていりに數  
千なり。束となして會所へ持來る。交易を煎海鼠百メ  
付玄米五盃。但一盃も二合五夕入椀なり。酒なれば右  
の椀よて三盃づ。其外の品と交易なきモ。右ふ准じ  
たる價なり。右會所ふ溜さる煎海鼠を。メノコを呼集

め。會所の板せ間よて串をぬうむるよ。但メノコ四五  
十人。又七八十人もよるもとあり。是も小使ふ申付。  
會所最寄のメノコを集る。箇様の事ハメノコせ役ふ  
て。きることなり。同上

○鮭交易の事

東遊記附録よ。鮭二十頭を一束として。例年二百萬束  
程。捕るといへり。價安き時を松前江差邊よてハ。一頭  
を鳥目三拾文よひさぐ事あり。先年至て安き事あり。  
草鞋一足ふ鮭ひとつをかへしといふ。蝦夷地よて交  
易あるも。此定よへらば。定たる直段有なし。蝦夷人船

ふ積來て。取替吳きよとせらむ。船數多なきを。ゑむ  
らく待べきよしをいへども聞入きこせ。我さだふとう  
かへんことを望む故。此方そなへのものもぐらをしぎりて。  
此鮭も惡しひへぞ。たゞちよ其船をうちかへし。鮭  
を川へ捨て。また外の鮭を積来る價比安き事。是ふて  
たしもかるべし。捨くる鮭を後あとからうなげて。木比枝  
へうけ干たるものを。乾鮭と云なり。千島志料

○擇捉人交易せうぎ仕事

擇捉島の人。交易せうぎ舟を見ると。皆立退てその處ところに居  
らず。尤いづきの舟つきよも。交易のものを置小屋こやにす。

扱交易船よう荷物を運び。その小屋へ入て舟曳陸より  
揚げ。その場所比見えざるほどの所へ引込む事なり。  
擇捉比人國中言合せ。おもひくよ獸の皮曳持來て。酒  
煙草鹽米。又蝦夷比產比アツシ杯ヒ。勝手よとりかへ  
て。その場所比小屋へかもりよ入置いてかへるなり。扱  
又蝦夷人三四日過てその處より來り。彼交易比物をヒ  
リ取て。船みて已ゲ國へ歸る。其時よ過たるよき皮曳  
れば。其場所よ又餘比物なりとも入置。そのたしめよ  
して。嶋人へ遣そしけるなり。其交易ある事。毎年四五  
月比頃なり。蝦夷國より去年日本人ヒ交易したる。米

鹽酒煙草。蝦夷國の產。アツシ杯。類を船より積みて。  
此擇捉島へ來り。岸より船をつけ居ると。擇捉の人やう  
て。又言合て。その近所残さり山へ入る。二日程ゲ  
間來らば。さて蝦夷人もそぞ近所を見き。物入置所  
數ヶ所。是より交易せ品々を入置。扱。その所を退て。  
船を陸へ引ひ。小屋を作す。二三日或も六七日其場  
所へ至らば。かくて人々いたらざるを見て。彼品々を  
置たる所へゆきて。みまば。種々せ獸せ皮を交易して  
置事なう。その時置たるものよ過たる品。られば。その  
品を殘置。まこと船比中。其のを其處より置償て歸る。

實正しき事といふべし。その交易のモジメモカヒ  
英斯歌未亞ヒ風ぬりヒのや。不審なり。扱又蝦夷人と  
交易したる品を。又のヒ英斯歌未亞ヒ人と交易をする  
モウリ。此ゆゑよ互よ他よよ済こぞしむる事ヤ本  
意として。唯めづらしきものを本國へ多くもち行事  
を手づらヒしたるものなるべし。この英斯歌未亞ヒ  
人擇捉よおひて。蝦夷ヒ人よ逢ひし事モウリといふ説  
有。蝦夷見聞志。

○夷地よ鉄錢通用建白の事

一 蝦夷地交易の義也。品を以替候事故。少分ヒ交易モ

勘定も明りよ相成候得共。過分の交易も升目量目等渡方。不正直比筋も有之候間。蝦夷人氣請も不宜趣。然ビも町人の方よてモ。入組の勘定合を以て取捌よ於テモ。格別比利潤も有之ふ付。前々より其通りよ仕來候義と奉存候。此度直捌よ付升目秤目等。不正ハ有之間敷候ヘビモ。過分交易も矢張勘定合入組可申哉よ奉存候。依之勘辨仕候處。右上地の分許ア銭錢通用爲致候ハ。勘定合手易相成可申義。現然よ奉存候。假令ハ蝦夷人足よ遣ひても。賃錢を遣し候ヘバ。多人數よてモ勘定手易く。蝦夷人モ

右賃錢を以て已シ入用の品買請候間稼方ハシマツ格別  
出精可仕義シテ奉存候尤年季明地所御差戻しの節  
も右錢引上候シテ却て外シテ蝦夷地の差障シヤウジヤウも可  
相成筋シテ有之間敷シテ奉存候蝦夷人共兼て錢通用  
好候様子シテ御坐候間鍊錢通用爲致度奉存候尤  
金銀を堅く通用爲致不申様取締方可有之義シテ奉  
存候依之右の段奉伺候以上

未正月

本文内談

一交易の品米酒煙草其外一切の品買調會所

積置。尤も兼て直段定置。蝦夷人ども。錢致持參  
候。ノト賣渡せべし。又蝦夷人共べ持來る昆布  
未魚類。其外產物を可買請。會所を取立。鍊錢を以  
買上之。蝦夷人足賃等是又鍊錢よて仕拂之。

一年季明。猶鍊錢通用相心得可申と存候節。其  
段申觸持參の錢數丈けの品物相渡し候積す。  
右會所賣渡候と買上候ヒ。ニヶ所建置候積リ。  
一交易產物并取捌方等の義書面の趣大意ハ子細考  
無之哉。子候得共。七ヶ年過て戻地ノ相成候リ。又そ  
れ内ふも戻地ノ可相成時も。鍊錢通用等相止め候

義より至候節。蝦夷共俄より迷惑可致。左候ても又あるをしのらば候。一鍊錢通用の儀七ヶ年過。公儀の御趣法宜敷を若狭守義も學び。外より蝦夷地も御趣法の通取締宜敷候節も少く無御苦勞御用地比份御差戻し相成候得バ。鍊錢通用を猶充分より被差免候て可然。左候得バ聊の弊有之間敷ハ勿論より奉存候。若又公儀御趣法宜敷哉不相學して。蝦夷地猶當時同様の姿より候ハリ。假令七ヶ年過候共御差戻し比義も決して有之間敷奉存候間。鍊錢引上の期より無御坐候。万一公儀

御趣法不宜。徃々御取締より相成間敷趣よて。差戻しの節。鍊錢引上候。ノ。蝦夷ども俄より迷惑可仕義も。勿論より奉存候へ共。只鍊錢引上げの一件のみより無之。此度比御趣法御世話御止め相成候てハ。錢通用比外蝦夷人共。俄より迷惑仕候義も勿論より可有之奉存候。然逆當今比姿御見捨可被成義も無之候間。此度の御趣法被仰出候義より奉存候。御仁恕の御趣法を以て。御世話有之候得共。邊士の夷狄より不被爲行届。御止めより相成也。不及是非天命無餘義事より候。蝦夷共の迷惑有是亦渠々不幸にて。不及是非義

候得共。公儀の御不取計ひと申筋ふも相成間敷奉存候。

但銭錢引上候共。何乞散在可仕候得ハ。引上後兩三年間通用可有之候ヘバ。果て通用相止候義。有至間敷奉存候。御用地御差戻し相成候て。前書申上候通り上サ外。蝦夷共迷惑仕候次第。前書申上候通り如何程も可有之義。奉存候。銭錢の後弊のみ。其義よても有之間敷奉存候間。錢通用爲致度奉存候譯。左よ申上候。

一長崎表此如く唐紅毛のみ。相手の交易ふてを勘定

合入組候よし。殊よ蝦夷人の義も廣く散在仕候事  
のれ。相手小品替よ仕候ても。夥數人數相掛け候義  
み候。夫も當時の姿。蝦夷共の響きよ不相構候ハジ。  
何也とモ取計ひ可相成候得共。夫よても無詮義よ  
候間。蝦夷共方へ利潤有之候様よ仕候ても。此方よ  
て過分モ損毛有之。此方損毛無之様よ仕候ても。當  
地モ趣モ不仕ても不相成候間。銭錢通用を始め雙  
方モ失費を省き候積モ。且品替よても。矢張異國會  
釋のものよて。隔意有之様よ奉存候。

品替と。錢通用の勝ヒ劣左モ申上候

一蝦夷人共稼出候產物。運上屋にて是迄の通品替仕  
候て。又蝦夷人ど居所よて。賣拂候義不相成候間。  
遠方運送仕。運上屋へ持參賣拂。右代諸品も同運送  
仕罷歸候間。徃返の運送全く蝦夷共の失費も相成  
申候。錢通用仕候り。居所よて賣渡し。仲買牀のも  
のを出取集め。運上家へ荷物賣渡し候節也。代錢よ  
て請取候得バ。是亦運送比失費を相省き。自ら出產  
も相増可申義奉存候。是迄の通品替仕。右諸色貯置  
候て。其限よて外の品互替候義。不便利又有之。其  
上粧酒等永く貯置候共欠減相立申候。錢よて貯置

候得ぞ。其時ふ望候品買求申候。

一交易直段立方比義。米八升入一俵より。諸品直組仕候義。御座候。依之假令も米一俵ハ針三十二本より。一本より付米二合五夕より相當申候。仍て婦人また子供等右二合五夕より以下少々產物稼出候節も。代物可差出様も無之。付飯又ハ酒等比類見計ひよ。代もの遣候義。付無代同様。付相成。稼方相進み不申。錢通用。有之候得バ。聊此品。よて。も定直段相立候間。蝦夷人共稼方。も相進み。買方よて。も自然品多く相成可申ヒ奉存候。

一此度於御用地より御役人家來并諸職人共。錢通用無  
之ても。半年許も免也。角也。交易仕候ても可相濟  
候得共。永々在住仕候より至りても。錢通用無之を差  
支必然と奉存候間。蝦夷人共も是迄此趣よても。日  
本人分も。錢通用可被爲致と奉存候。左候得バ當時  
東蝦夷地茅部邊廿如く。日本人も錢通用致。蝦人ビ  
もを仕來せじとく品替ふて。蝦夷人共氣請不宜候  
よし。是迄の通りより相成服從不宜奉存候間。錢通用  
爲致候方可然奉存候。

一鍼錢通用無之ても。前書比趣蝦夷人共稼少きを勿

論みて御役人出役無之ても升目秤目等の不正無  
之様相成べく候得バ。蝦人共一ヶ年衣食住の助合  
ふ相成程。其稼も出來仕間敷奉存候。併衣食住比御  
手當別段被下置候とも。其御手當有之間も。稼可有  
之候得共際限なく年々別段御手當被下候と申儀  
也。永續不仕義ふ奉存候畢竟も其土地の產物を以  
て。衣食住比營相調候様不相成てを。譬バ借金を以  
て暮し方取賄候様なるものよて。年々利金だけ比  
不如意ふ相成べ如し。土地比產物を以て衣食住と  
も調ふべき様ふ取計ひ不申てハ。永續の謀ふる有

之間敷奉存候。此御趣意より至り品替比交易計アリ  
てモ。逆も右駄の稼を出來申間敷ヒ奉存候。尤も是  
迄交易方過分利を貪り候趣モ御坐候間。其處勘辨  
を加ヘ取計ひ候ハ。是迄よりも稼可申候一。衣  
食住比三ツ調ふ程の事モ難及奉存候。何逆當年  
來年迄モ。御入用夥敷御義モ可有之。其上モ永年  
交易方少於て。過分の御足金等モ相成候ても。右三  
ツ調兼候様成行可申ヒ奉存候間。錢通用爲致候ハ  
ト蝦人共稼も出來。公儀御損失モ不相立。永續比基  
ト奉存候。其上錢通用不相成てハ。其掛御役人も甚手

數相掛り。只今迄心組候人數倍無之て。手届兼可  
申哉。奉存候。彼是差支多く有之。錢通用其開國の  
主法第一ヒ。奉存候義。御坐候。

但錢通用候。手廣モ。罷成。錢相塲等も自然  
ム引直リ。都ての御救モ。可相成候。其上北國筋  
モ。兼て錢通用北國柄モ。御坐候得モ。御差支筋  
モ。毛頭有之間敷奉存候。

右の趣一同評議仕猶又申上候以上

未正月 未根○春水出來由松平信濃守

休明光記

○交易品直段の事

一穴熊膽目方兩玉付

代錢百文

一大熊皮一枚膽添

代錢一貫二百文

一中熊皮一枚膽添

代錢一貫文

一小熊皮一枚膽添

代錢八百文

一北蝦夷地廻小皮類買入直段調

一大獺皮一枚

代三百四十文

一中獺皮一枚

代二百九十文

一小獺皮一枚

代百五十文

一大狐皮一枚

代百三十五文

一中狐皮一枚

代百二十一文

一小狐皮一枚

代百十一文

一 狗皮一枚

代三十八文

一大貉皮一枚

代百二十一文

一 中小貉皮一枚

代百十一文

一 大鱈出產物蝦夷人より買入直段調

代錢九十文

一 干鮠一束

代錢百三十五文

一 楊繩一把

代錢二十五文

一 昆布目方四貫五百目一駄

代錢三十五文

但他場所へ出稼の節。昆布代の外一駄手付。玄  
米二合五夕宛。介抱手當遣サマシテ

一 煎海鼠一つ

代錢一文

但一日數二百以上取者へハ。酒二合五夕宛手

當遣サマシテ

一 生鮭一束

代二百二十四文

一 干鮭一束

代錢百十二文

一 魚油一升

代錢百文

一 椎茸一つ

代錢一文

一鹿皮一枚

大皮代錢四百文  
小皮代錢二百文

蝦夷人一請負人より諸品賣渡直段定

一玄米一升

代錢五十六文

一酒一升

代錢二百文

一濁酒一升

代錢六十文

一麴一升

代錢九十文

一地廻り煙草一把

代錢九十文

一古手綿入一枚

代錢二貫五百文迄  
三貫文止

一紺木綿一尺

代錢三十八文

一染木綿一尺

代錢三十五文

一白木綿一尺

代錢三十五文

一茜木綿一尺

代錢四十文

一傳甫繩糸色取合一線

代錢三文

一行器一ツ

代錢五貫文

一臺盆一組

代錢一貫二百文

一耳鹽一ツ

代錢二貫文

一酒桶一ツ

代錢三貫文

一かあづま一ツ

代錢四貫文

一提一ツ

代錢百五十文

一板折敷一枚

代錢七拾六文

蝦夷椀一ツ

代錢五十文

丸笊一枚

代錢七十六文

鍋一升入一枚付

代錢三百文

鎌一枚

代錢九十文

鉗一枚

代錢五百三十文

田代一枚

代錢二百五十文

間切一挺

代錢大二十八文  
小二十八文

火打一枚

代錢二十八文

永代張煙管一本

代錢九十文

いすあ鐵一向

代錢五十六文

一釣針一本

代錢二文半

一木綿針一本

代錢三文五十文

一革針一本

代錢八文

右の通

代錢四百文

安政二卯年

新元會百文

蝦夷雜書

代錢六百文

一昆布四貫五百匁

代錢四十五文

一千但一把よ付玄米二合宛代錢の外よ遣

一布海苔六貫多よ付

代錢九十文

一市但十貫半付玄米一合宛前同斷文

一千鱈二十本一束半付

一千鮠二十枚一束半付

一厚子一反半付

一鹿皮大一枚半付

一鹿皮中一枚半付

代錢五百文

代錢四百文

一熊膽

一千上一反

代錢三百五十文

一千中一反

代錢二百五十文

下  
一

多  
一

賈  
一

代  
一  
錢  
百  
五  
十  
文

○蝦夷人一賣渡直段書

一 玄米一升手付

代  
一  
錢  
五  
十  
六  
文

一 清酒一升手付

代  
一  
錢  
五  
十  
文

一 濁酒一升手付

代  
一  
錢  
六  
十  
文

一 草鞋一足手付

代  
一  
錢  
十  
四  
文

一 葉煙草一把手付

代  
一  
錢  
九  
十  
文

一 間切一挺手付

代  
一  
錢  
七  
十  
文

一 田代一枚手付

代  
一  
錢  
二  
百  
七  
十  
文

一 縫針一本手付

代  
一  
錢  
三  
文

一木綿糸一操手付

代錢五文

一木綿類一反手付

代錢一貫二百文

一永代張煙管一本手付

代錢九十文

一革針一本手付

代錢十六文

一古着一枚手付

代錢二貫五百文

一股引一足手付

代錢九百文

一斧一挺手付

代錢五百文

一鍋一升焚手付

代錢百五十文

一塗物類

右之其年の直段を以相拂ふ

一鹽增米國

右食用丈會所より手當より差遣を

右の通

外卷盡十斗。人頭直付者同上。支額候。付。相

安政三丙辰年五月一奉付。十勝。會。不所品よ。書

同上

同丈度勘定の事

脛胸臍。交恩特。姓。上人。や。ウ。外。卷。盡。十。斗。二。事。

代米。一斗四升。付。驗。並。外。卷。盡。十。斗。二。事。

タケリ品。も。進。と。外。米。盡。十。斗。本。助。大。難。追。目。も。り。五

此代。木。綿。五。尺。五。寸。の。積。よ。て。何。よ。て。も。差。遣。

候

熊膽

一〇〇

是名極上此品。又て代米三斗五升位。夫よう段々下品より代米遣し候。但穴熊正月より三月頃迄。雪中より取たる飼熊此膽も用立不申。乍去右も交易此數より入。少しの代米遣し候。

同皮

安知極上々皮代米一斗位。夫よう段々下此品より寄。古の代米遣し候。

古之狐皮會西毛毛半當毛差一枚

右之鹽代米闕段を以相拂ふ

右交易品。前文比積を以て。夷人望の品何みてす。差遣し申候。

但皮類比義も。夷人納高比内着用仕度願候ふ付。相

下げ遣し候義も有之候。高島筆記。千島志料

○夷勘定の事

夷貸附差引勘定比時。たゞへバ鮭七束七連といふ事を。ヘロキ。アルワン。テシ。イカシマ。アルワンシケ。といふなり。ヘロキも鮭アルワンを七テシを連なり。イカシマも其上よてといふ事。アルワンシケも七束なり。右のごとくアルワン。イカシマ。アルワン。シケ。ヒ通辭其

夷。云聞る小。其夷ハアルワンテシ。エツベサンシケ  
といふ。これも譯也。アルワンテシを七連。エツベ  
サンシケも。八束なり。上ふエと付ていふ時も。一つ引て七  
束なり。ケ様よ七束七連を。云ゆうふよアテ。いろくよ  
云事なり。其夷通辭が云を。どくと聞請ば。自分は思ふ  
處をいふ故。矢張同じ數な達ども。違ひたるやうふ脇  
よりもみゆるなり。其夷よ並て居たる夷も。脇ふて早  
く呑込居たる故。側より其夷よ云ふも。ああゝの言も  
親方也言也。おなじ事なりと云て笑ひたり。かくいも

れて考へ付くるや。成程さやうなうと呑こみたり。右  
七束七連を。夷言ふいふときも。幾通ふすいをゆるな  
う。則左の如し。

七束七連。夷言連をテシといひ。束をシケといふ。小  
西束を五連の事ふて。ホンシシケと云。都て端の小數を  
同先よしていふなう。

西七連

俱上

七連

七連

山一ツ引八束

二連

七連

七連

一ツ引タツハ八束

如<sup>レ</sup>此數をいゆくよいふ事ふて。いづれをいひても通

するなり。夷諺俗話

○山丹人交易品取扱の事

山丹人交易ふ相用候小皮類等。東西蝦夷地の分も。場所より於て取集め。毎年三月頃迄も。石狩勤番所へ差出。同所よりて取揃。北蝦夷地勤番せむの通行比砌相渡候。西蝦夷地濱益より奥地の分も。宗谷よりて取揃置。右勤番へ相渡候。安政蝦夷處置取調

○山丹オロツコ交易の事

山丹オロツコ交易取扱手續仕法書并附

一山丹人奥へ致來着候節もウシヨ口又モナヨ口邊  
の役土人より。其段富内御用所へ届出候付。同所  
詰足輕一人御雇足輕一人。差添ノタサン又モクル  
ユンナイ邊迄出役爲致。彼處よ行合次第直モ持參  
此交易品相改。封印付諸事致取締。白主へ相廻候。

一山追ても富内よて。交易取計候方便利上亦可有之。  
是モ事實差支の有無取調。別段可申上積う。但山  
丹人來着の旨届出候ハ。先例此通渡來此船一  
艘よ付。左此通差遣し候。

一玄米

一升

一清酒

一升貳

一菴

一把

申候。

但 是 丹 丹 交 易 御 入 用 品 一 纏 御 入 用 へ 組 达  
申 候。

一 山 丹 人 白 主 逗 留 中 そ。 御 用 所 前 相 除。 西 北 方 海 岸 よ  
丸 小 屋 取 建 居 申 候。 依 て そ 塚 所 々 々 役 上 人 ど も 召  
集。 一 同 呼 出 彼 等 逗 留 中。 不 法 せ 義 無 の 様 心 付 可 申。  
且 兼 て 申 渡 置 候 通 う。 彼 等 と 品 物 貸 借 等 决 て 不 相  
成 旨 申 渡。 其 節 居 合 役 土 人 へ 一 人 よ 付。 左 せ 通 遣 し  
候。

一 清酒

但是そ御入用前同斷

一 山丹人持參品も。封印此儘會所へ預置。詰合役々私  
よ取寄一見不致取極よ有之。且船手此もの番人等  
彼等と丸小屋出入此義不相成段。嚴敷差留申候。尤  
逗留中。火比元心付取締の爲め。夜廻り申付置候。

一 交易手續の義も。一番着船よう順よ相勤申候。其節  
爲取締調役下役以下役々交代致出席。交易方此義  
も。支配人通詞帳役此者共取扱。且亦山丹人共の内  
差働も有之重立候もの。當時四人證人申付有之。右

の本代并白主ナヨ口總乙名爲立合。夫々通辨引合等亦有之候。付。交易相濟候後。何速も左の通爲取物有之候。仕來。御坐候。

一金二分づ

支配共へ

通詞帳役へ

一金壹分づ

但是を私領の節。中絶の趣。候得共。昨辰年廻浦組頭向井源太夫評議濟の上。御備金よう被下方取計申候。

一玄米八升づ

一清酒二升づ

山丹人重立ものへ

一 萉 二 把

一 造米 二 俵 但八升入

白主并十ヨロ

總乙名一

一 麬 四升少

但是立交湯御入用品致一纏御用所御入用上  
組込土品

一 交易本立此義乞其品小寄。見積子有之候得共。前夕  
買入帳見合。取扱來候上付。昨辰年右帳類取調此上。  
山丹交易本立帳ヒ題し二冊相仕立。佐藤桃太郎機  
村勝兵衛致調印。一冊乞箱館表へ差立。一冊乞白主

表ふ有之候。

一 交易濟山丹人歸船の節も。途中不法の義無之様。爲取締西浦役土人共其内兩三人同時小差立。クシユシナイ邊まで爲見送來候。

一 交易御買上品も荷造致し。山丹交易品調書帳相仕立。御買上品并代品小皮類器とも相記し。自主諸調役致調印添觸を以差立候。

但荷造御入用前同斷

一 獺皮

代清酒二升五合

一枚

代錢六百七文五分

一 狐皮

代清酒一升

代錢二百四十三文

一 狗皮

代清酒五合

代錢百三文五分

一 東西蝦夷地出皮役北分。昨年於箱館表御評議濟の

上。其場所々々詰役よて出增方致世話御買上取計。

御用便北節。北地へ相廻し。右北貟數御入用共。其年

限り取調候事。よ取極候。

一代品鍋鑷鏪夷刀等の類。御仕入方北儀も。前同斷

御評議の上。北地詰役より請負人共へ。直よ注文申

遣し。右御仕入の多寡。御入用共取調候得共。箱館御役所より。請負人へ御下金有之候積取極候。但鍊器の類も。山丹人懇望此品ふ無之。是迄詰場所出皮不足ふ付。無據鍊器類相仕入。小皮此不足哉補候趣ふ候處。近來山丹人渡來間年多。御有合皮多分ふ付。差向鍊器御仕入不仕候。

右山丹交易取扱手續仕法共書面の通候。尤山丹品御拂直段等の義も。狩並の掛取扱ふ付。別段不申上候。一才口ツコ人比儀も。東浦奥地役土人附添。年々クシユニコタンへ致來着居合役土人差添。詰役爲機嫌

間罷出付。社來の通夫々差遣品。左の通り。野  
舊玄米四升半。あぐた。糲。才口ツユ人。船頭へ。上。下。噛  
糲。來。二升。上。掛。紹。今西半。其翻。則。富。其同。  
田。煙草。狂。把。筋。微。此。喫。備。入。共。外。又。土。入。  
外。又。清酒。五升。上。由。多。數。由。主。入。樂。實。品。名。財。  
外。殊。難。器。共。夫。半。輕。持。の。前。與。來。者。樂。實。品。名。財。  
手。清酒。一升。槩。上。金。多。難。持。  
附添役土人へ

下。煙草。二把。甚。參。品。少。重。本。事。是。由。上。木。土。職。品。  
一。清酒。五合。

一 貴  
一 把

差添役土人へ

但是も廉分いたし。御用處御入用ふ組込

一 オロソコ人持參せ品モ重ふ海馬油よて外ふ海馬等此皮よて製しこる靴をケリといふ此品をも少々持越候得共先年御料の節以來米粬菴等を以運上屋へ買入よいこし油も燈油并土人撫育品ふ相用靴も極寒積雪此砌番人共并運上家勝手働土人共用來候趣よ付昨今兩年も其儘据置候處當年同濟の通明午年より爲取締マアヌイ御締所よて御買上ふ取計候上爲致願受其余出增油の分も便船

を以箱館廻し比積候。

但右御入用前同斷

一オロツコ人山丹品一二持參候得共。是ハ私領比節。右品可成丈可致持參旨。申付置候付。無據山丹人と致交易持越候義よて。多分比代品交易ある事也。殊の外難義よ及び候趣付。昨辰年來着比節以後。絶て不及持參。土地土產比皮類油等出增方致出精。年產筋行立候様精々可心掛。猶亦御撫育も被成下候旨申渡置候。尤山丹品持越候節也。米糲貰等よて買上の仕來よ候。

但右御入用前同斷

一才口ツユ人持參品。於運上屋買入。此節も爲取締同  
心足輕出役致候。尤差添役土人等爲立合候仕來。下  
候。

一才口ツユ人持參山丹品數多此節も。御買上品調書  
帳。山丹交易同様相仕立候得共。一二持參此節も。御  
買上取計方申上書相添。品物差立申候。

但定例多分此品有之。付別段荷造等不仕。山  
丹交易品一ト纏。下差立候將亦山丹人共。品よ  
寄。冬分雪車小乘う致來着。食料此品交易の爲め。

聊此品持參候事も有之節も。右品差立方前同様  
取計申候。

右才口ツコ入交易取扱手續書面の通候。

附

山丹交易此起りも何頃ヒ申年月原由も相分り不  
申。前々よりサ仕來よて。往昔モ宗谷土人共モ。北蝦  
夷地一致往來。居家妻子等をもち。同所土人共相  
雜モ。山丹人と致交易來候處。其頃北蝦夷地此義也。  
松前屬ヒ申迄よて。取締此義も無之ゆゑ。右交易事  
付ても。山丹人共鬼角我儘不法の振舞多く。土人一

統致難澁候。付重立候。もの子孫當時五人衆。ぬう評議の上宗谷へ渡り。北地土人北儀諸事進退差配を請度。依て永世和人ふ違背不致。其爲證據持傳北品を差出置候趣を以致歎願候。付松前家ふおひても。寛政元酉年宗谷越渡り。初て山丹交易會所取建候よし北處。尚舊弊不相止。其上才ムニヤ北節。御土產と唱。山丹品を土人よう差出來候。付一体山丹人よう年來の取引有之上。猶亦借財北品等返済方手段無之。催促を受け難澁致。北みならむ。爲引負子弟を召連行候。次第立到り候間。山丹人年々

白主へ渡來いし候道筋住居北土人ども。逃隠走  
いたし候程北義故彼等を益々我意より募る。頗る不  
法比事共多く既より取合候義も間々有之手付。文  
化四卯年御料より相成候上。右返濟方北義品々申渡  
有之候得共。土人共自力よりよびがひき趣の處。山  
丹人よりも嚴重催促有之。宗谷北地北土人共借財  
よくるしむ事。一通り北義より無之。其儘誰も差置夫  
々取調北上。同六巳年より同八未年迄。公儀御入  
用を以。北地土人分粘皮千四百六十六枚。宗谷土人  
分粘皮千百七十四枚。山丹人へ渡し皆濟被成下。以

來才ムニヤ此節。山丹品不及差出。勿論貸借一切停  
止。此旨申渡有之。付宗谷北地の土人。御仁恩  
永く忘却仕間敷。且向後山且人より借用品等不相  
成間。末々の。此迄申聞誓て仕間敷。其爲證據役土  
人共よう。夫々手印差出置候處。以來心得方宜敷趣  
よて。同十二亥年殘らば差戻遣し。將亦山丹人共右  
催促此義。付不法の振舞有之。廉取糺候處。申譯難  
相立誤入候段。爲書付代手印爲差出置候處。前同斷  
付同年差戻候得共。古借皆濟。付向後土人一對  
申分無之旨。證據書付代として。夫々爲差出候品。蝦

夷刀鍔矢間切の類も。永く不差戻積を以て。右取扱松  
田傳十郎譯書相添。白主會所より預置候段。私領へ  
御戻地も相成候節。文化五年松前家等へ引繼有之  
候處。猶又天保九戌年西浦ナエヨ口總乙名シトク  
レラン伯父ヤエニコロヒ申毛の。山丹人タニケ  
ニ又親々カ同斷才ヨシク又親シヨツケ又よう。  
古借有之趣もて。シトクレランヘ及催促。爾後難整  
候旨訴出候も付。翌亥年七月双方取糺候處。古借年  
月を相分り兼候得共。銘々親々より聞傳也有之。無  
相違趣も相聞候處。シトクレラン手限及返済兼候

よ付。猪皮六十枚致皆濟遣し。以來貸借一切不相成  
段申渡。向後申分無之爲手印タシケンよう蝦夷刀  
一腰。才ヨシクよう鍔壹枚爲差出置候趣を以。前文  
御料の節引繼候品一同譯書相添。昨辰年松前家士  
より引繼有之よ付。何キモ白主御用所へ預置。山丹  
人と貸借の義彌以制禁の段。總體土人共へ嚴敷申  
渡置申候。

右織部正殿より御沙汰よ付。取調仕候處書面此通ふ  
御座候以上。

巳八月

佐藤桃太郎

北 蝦夷地御用留

○介抱ハ交易といふ事。

蝦夷秘鑑。松前の町人ども其地頭へ願ひ出て。蝦夷土人代介抱いたれ。たき旨を訴訟す。運上金の多少残撰了許容。其場所へ米酒を土産とし。其外品々を大船より積て送す。其場所より蝦夷土人どものとりぬぐる物産と交易いふし。其大船より積入て松前へ歸帆し。請負人亦是を諸國へ賣拂。價金銀米等をもる事なり。介抱を交易をいふと。千島志料

○產物の事。

金山

松前所在せ内。センケン山。クシヌイ山。ハホロ山等  
諸書ふ載たせども。皆芝下金と云者みて。土砂の内  
ふ交りたる砂金なり。真金みてをねし。又浦河と云  
處を金山跡あり。是を堀たらバ出つべきと思ふ。  
其外エリモ邊ラツコ嶋等ふ有。また深山ふをぬる  
づきう未開。せ大國なれば。明細探索ふ及び難し。時  
を得て達生べし。

銀山

古來より銀山の沙汰ふなし。カラタミ山。カフラツ

金山

松前所在せ内。センケン山。クシヌイ山。ハホロ山等  
諸書ふ載たせども。皆芝下金と云者みて。土砂の内  
ふ交りたる砂金なり。真金みてをなし。又浦河と云  
處を金山跡あり。是を堀たらバ出つべきと思ふる。  
其外エリモ邊ラツコ嶋等ふ有。また深山ふ有。而る  
づきう未開。せ大國なれば。明細探索ふ及び難し。時  
を得て達せばし。

銀山

古來より銀山の沙汰をなし。カラタミ山。カフラツ

箱館在せ大森村石崎村等ふあり。其外諸所ふおほ

黄銅

メツスイオホストロフと云嶋ふあり。此金日本ふ  
て見ゆ。生ねうらふ金色なり。銅よて真鍮の柔うな  
るやうふりと。赤人涉海して予ふ委細を語れり。

餘糧

擇捉嶋シヨツネチャといふ所ふあり。貯置て時々  
糧ふ用ひ食料とす。色白く餅の如くみて味ひ甘し。  
此鳥ふ渡海せしどき友船ふ別き。米味噌むなく草

み根を焚て。此土を入達食事とせしよ。甚<sup>羽</sup>軽く味よ  
きなり。

碗青

志古丹嶋よう取マ來る石。よて珍らしき品なる。よ  
つきて目利サモの衆評究て佛頭香と名く。瀬戸物  
を焼ム用ふ。土器の摸様を画ク繪の具なりといふ

硯石

箱館村北先。石崎村ニコイ濱と云所一圓ム有り。ま  
た此山陰ヨヌルイ川ヒ云川筋ム有リ。江戸細工人  
小彫せて予所持シル者ねう。日本へ運送シルムや

鐘乳石山。劍山。と曰ふ。西蝦夷地太田山。北最寄。地藏安置の岩窟。ありといふ。

石炭

釧路場所の内。ヘツシヤフ村。みゆう。海松古丹島。もと鬼子來。ひよて鬼子。うち品甚。よし。松前海邊。何方。よも生せう。色赤く。檜。葉の如し。松前近く。よ床飾。よ用ふ。

汐凝

半俗ふ蝦夷珊瑚とのふなう。枝珊瑚ふ似う色紅ふて  
甚美しきものなり。是亦床飾もあら。

明礬

江差ふ澤山あり。製法いまごあらば。依之土へ捨置  
なり。

温泉

大澤。川汲。乙部。見市。平田内。湯の臺。シヘツ。セキ。鹿  
部留の湯。アサミ山。サ湯。シリウラ。湯。サ川。其外ま  
所々みゆう。

黒花百合

厚岸邊より奥所々みゆき。

### 百花春菊

此春菊也。蝦夷地所々みゆき。

### 秋萩

モナシヘ村のヤモキシナイ邊ふゆき。幹の廻り四寸以上せものゆき。

### 篠竹

西蝦夷地積丹ヒのふ所みゆき。生れ付て黒き虎斑

ゆき。今積丹竹と云。

### 牛房

有珠蛇田兩所み生ずるを最上とす。自然も生じて  
其根の大き廻り一尺余なり。味ひ甚よろしく和ら  
のよして。中心の空ぬれ。

一角

浦河場所みて得たる事何う。松前家臣某持來う價  
尤たふとし。

白熊

メツスイ体才ホストロフヒのふ島より出る。赤人甚  
賛賞美せり。

黑狐

東地の島ふた石し

銀鼠

東蝦夷地は所々ふたり。鰐より小なる物にて真白  
しまゝ稀ふ赤きをたり。

金海鼠

奥州金華山北近所の海上より取を。名物ねうとい  
つて。他國ふなきやうふ思ひしよ。東蝦夷白糠釧路  
邊。或も國後島ふたりす。

ムリカラ大ち吸と一ス余あく。味の甚もさう味も  
大解ふて手せ長さ四五尺許り。味ひ甚羨なう。

セチコロウ。

龜カメ如くなるものみて小なり。肉堅く味美なり。

アイチコルへ。

赤魚サバ如く尾テよ角ツノあり。此角ツノは麪皮マツバを取ハシうて。箭ヤミ根ハリよ塗スルて。獸ケモノを射ナシるふ一矢イチヨウよて射留ハリタマるなり。角ツノも鳥犀角トリガツツノ似ナリ。

カチコルへ。

形ハメを詳ハラダならハラダ。角ツノ一本イチボンよて水面ミズヒよ振立ハラタマ見ハタマれどハド也。其形ハメを得ハサハシざるふ因ハシて知ハシマらハラダ。近寄ハラタマ時ハタマニ香氣カクイよ醉ハラタマて煩ハラタマふなり。

シハシヘヨルヘ。

松前みてシヤリ蟹といふ。首を齧みて尾を海老は  
す。頭ふ真珠ころ。紅毛人持來る處のオクリカニキ  
リなり。

カモコルヘ。

松前みてユツユヒ云魚ふて鱗ころ。河豚の如く  
腹ふ菊比花の如く文あり。オコゼといふ魚ふ似た  
う。毒魚ねうきて蝦夷人食せざるねう。

オシユルユマ。まるすのよア小魚也。肉望と未美也。  
鱸也形ふ似たり。肉も鱸也如く味至て美ねう。擇捉

島サ先ヨウ。鳴々ムアホレ。

ウルツブ。

鱈サ如くムシテ大ナリ。肉モ至テ赤ク味美ナリ。前

焼シテ尚又色赤ク海老サ如シ。

レブタチリ。

形色ともふ鳥の如シ。頭赤ク國後鳴ヨウ先ムアホリ。  
エトヒリカ。

色彩とも鳥の如シ。嘴赤し。擲捉鳴の邊ム多くアホリ。  
フレツヤムチ。

雀サ如くムテ大ナリ。目玉甚美く眉毛アホリ。嘴の上

毛ぬりて異なり。目生甚美。口もとも。背の上  
力シネキ。

松前より鳴鳥といふ。立ちたる形の高さ三尺許あ  
り。

シリガフ。

魚みて形ハ鮫也如し。身也丈七尺許也。上唇六  
尺許有て。不恰好なるものなり。

キナボウ。

形龜の如くみて。蝦夷人此魚也。腹より油腸を取  
て。腸中へ幣袋入れ。又海へ放すなり。

臘虎

首よう手を猫せ如し。尾もなく鰐有て臘膾臍似たり。仰て食物を食ふなり。得撫島マカレル嶋よう出る。

臘膾臍

長万部クンヌイ蛇田邊ふあり。又國後島よも有る

海獸なり。

ウネフ

臘膾臍比大なるものなり。蝦夷地何方小も有り。形

臘膾臍ふ似たるも比なり。

オレネフ。

海獸な

蝶鮫

西蝦夷地より多くハ出る。東蝦夷地の野田追邊よ  
も出る。

海鹿

チヤホヽコラレトウ。マツネソフ。イタナシ。イタシ  
ベ。五種とも皆アシカぬう。松前よてモアシカラヒ  
名付て。トゞともいふ。

海豹

シロトカリ。アザラシ。オウタシネ。カトスマ。ウレ  
青ホキクヘ。ケツホコマルヲ。アハシヘ。マクイ。イタニ  
ユホヒシ。オシヨウ。ヤイトカリ。以上十二種皆海豹  
なり。

鰐鮓

オコレ。テレケチロシノフ。レフンカモイ。トハユク。  
コシレフ。イユラカモイ。イテムケ。ネハイニイキカ  
モイフシベコノキ。九種皆鰐鮓なり。

鯨

ノユルトナイ。フレシベ。タンネベ。エリンベ。オリキ。

錦

ケニベ。イトチキレ。オアヤウレ。凡八種皆鯨なり。  
松前より十徳とも云。又コロモ共いふ二種なり。各  
綴色も縫もゆりて。皆異國の古着なり。滿州也官服  
なりといへり。

段切

卷物よて渡り来る錦純子繡子比類なり。各異國の  
ものあり。大玉。中玉。小玉。種々比色ゆり。  
青玉。

クニツラ

織たる毛氈よして。摸様種々比變ゆ。あわく古物  
よて渡る。

煙筒

白銅細工よて。飴物。硝子を入達たる細工よて。  
日本よ七寶細工なうといへ。銘を切たる有。

此外蝦夷產物よ。牛皮消。エフリコ。帆立貝等多し。諸書  
よ載せたれハ爰よ畧也。又渡う物よてもナメシ革。金  
銀錢。藥種羅紗猩々緋比類有出といへども。不定比渡  
りもの。ゆゑ爰よ略也。海邊磯邊寄物類也。大竹比細工

の浮木船具等も。時々珍しき物を所持せ。諸書  
よ載たま。爰より略也。蝦夷草紙

蝦夷產物荒増

鷹

熊皮

并膽

寶

工

海豹皮

鷺尾

真羽

糟尾

小鳥

薄氷

樣

鹿の皮

とく

の皮

毛ア

頭

海

豹

皮

ね

つ

ふ

鮭

鹽引

干鮭

脊割

筋子

干鱈

鰐

鹽切

油

メ

粕

干鮠

鯨

鹽

鯨石

燒鯨

昆布 青白細き長きぬり。石付の赤きは上品とす。

布海苔

椎茸

外

獵虎皮 得撫島北産なり

蝦夷土産

同上 大概

組前より出たる  
ものも畧せ

黄鳥

鶴臚丹頃共

六つひ

海豹の雌せよし稀ふぬり

ねつぶ

脰肉臍の類より大ぬり

黒苔

鹽蕨

藻魚干物

菊とち鮫 稀ふぬり

煎海鼠

脰胸臍并たけり

串鮑

角鷹

鷹類 不殘

白鳥

雁

鴨

青鷺 大小共

鶴

雲雀

鶴

水札

郭公

かつま鳥

小鳥類

不殘

狐

狼

狸

鯛

兎

ぬくらた 鰐之事なり

みやう 寄螺の事なり

豹

鱸

平目

蛤 七重瀆ふのり

千島志料

蝦夷風俗彙纂後編卷三終

附

國語

寄附の事

東

西

南

北

中

島

洋

日本士産賣上記

十日志

平日



